

## 第 学年 数学科学習指導案

奈良県立教育研究所が新規採用者研修のために作成している「教職員のための研修ハンドブック」令和3年度版に基づいて作成している。

日時： 年 月 日 ( ) 第 校時  
 場所： 中学校 年 組  
 生徒： 名  
 指導者： 立 中学校 ○○○○

### 1 単元名（教材名）【 年 出版社名】

学年 出版社名等 を記載する。

### 2 単元の目標

- \* 単元全体の指導を通じて生徒に身に付けさせたい力を具体的に記述する。  
 数学科においては、「中学校学習指導要領解説 数学編」にある当該学年の「第○学年の目標及び内容」や各内容のまとめりごとの指導事項等を参考にし、必要な記述を踏まえて作成する。
- \* 育てたい資質・能力の三つの柱について、目標を示す。  
 文末表現は、下記を一例とする。

- (1) 【例】～について理解するとともに、～する技能を身に付ける。  
 【知識及び技能】
- (2) 【例】～を考察し、～を表現することができる。  
 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 【例】～しようとする態度を身に付ける。  
 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 指導について

#### (1) 教材について（教材観）

- \* 単元の目標に基づき、単元の内容、単元の系統性、単元を取り上げる意義などを「中学校学習指導要領解説 数学編」などを参考に記述する。

#### (2) 生徒について（生徒観）

- \* 指導に関わる集団としての学習への向かい方や姿勢、到達度等を示す。
- \* 数学科においては、単元に関わる生徒の実態について具体的に記す。  
 事前のレディネステストやアンケートなどのデータを基に書くこともある。

#### (3) 指導について（指導観）

- \* 指導・支援の力点、学習形態、教材教具の工夫など、本時の学習内容をどのように指導していくのか具体的に記す。指導を通し、「○○において（場面）、○することにより（具体的な手立て）○○ようにする（目指す方向）」のように、記述するとよい。

### 4 単元の評価規準

- \* 単元の目標と「内容のまとめりごとの評価規準（例）」（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の第2編、巻末資料を参照）を基に、単元の評価規準を作成する。その際、中学校学習指導要領の内容における〔用語・記号〕、〔内容の取扱い〕の各事項も含めて評価規準を設定する。

【記入例 第1学年A(3)「一元一次方程式」】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。</p> <p>②簡単な一元一次方程式を解くことができる。</p> <p>③等式の性質と移項の意味を理解している。</p> <p>④事象の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができる。</p> <p>⑤簡単な比例式を解くことができる。</p> <p>*文末は、「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。</p>	<p>①等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。</p> <p>②一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。</p> <p>*文末は、「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。</p>	<p>①一元一次方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。</p> <p>②一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p> <p>③一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</p> <p>*文末は、「～しようとしている」として、評価規準を作成する。</p>

中学校学習指導要領解説(数学編)の記述も参考にして設定することが大切。

### 5 学習指導と評価の計画(全○時間)

各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次の表のとおりである。

【記入例 第1学年A(3)「一元一次方程式」】

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考 【評価方法】
1	・まだ分かっていない数量を求める場面で、算数で学んだ内容を振り返りながら、方程式の必要性を理解できるようにする。	知		知①:行動観察
2	・方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができるようにする。 ・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知		知①:小テスト ①:行動観察 振り返りシート
3	・具体物の操作等を通して等式の性質を知り、これを基に一次方程式を解く方法について考察し表現することができるようにする。	思	○	知③:行動観察 思①:行動観察
15	・単元全体の学習内容についてのテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。	知 思	○ ○	知①～⑤: 単元テスト 思①②: 単元テスト

\*表中の「重点」は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており、観点の略称は以下の通り。

知識・技能…「知」 思考・判断・表現…「思」

主体的に学習に取り組む態度…「態」

\*「記録」は、評価規準に照らして、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)のいずれであるかを判断し、全員の学習状況を記録に残すものに○を付している。

6 本時案 (第○時)

本時○時間目/全体○時間

(1)本時の目標

\*単元の目標、単元の評価規準、学習指導と評価の計画に即して、本時の目標を設定する。

\*生徒の立場で書く。

(2)本時の展開【記載例 1年生 「一元一次方程式」】

	指導と学習活動	指導上の留意点と配慮事項	評価
導 入 ○ 分	1. 問題を把握する。	・本時で扱う問題の条件の一部を提示する。 組み合わせていくらになるかを具体的に求めることを通して、本時の問題に対する理解を深めていく。	
	<p>問題 よしみさんが家族から買い物を頼まれました。プリンとゼリーを全部で15個買います。2000円で、1個80円のプリンと1個100円のゼリーをそれぞれ何個か買うと、おつりが600円でした。よしみさんはそれぞれ何個買ったのでしょうか。</p> <p>2. 問題を解決するための見通しをもつ。 ・問題の中の数量やその関係について考える。</p> <p>めあて:方程式を使って、身のまわりの問題を解いてみよう。</p>		
展 開 ○ 分	3. 方程式をつくる方法を考え、解を求める。		知④: 行動観察
	<p>&lt;予想される生徒の反応&gt;</p> <p>・プリンの個数をx個、ゼリーの個数をy個として方程式 <math>x+y=2000-600</math> をつくる。 ・プリンの個数をx個として、方程式 <math>80x+100(15-x)=1400</math> をつくる。</p> <p>・数量の関係を捉えられない生徒が多い場合に、表に整理し見通しをもたせる。</p>		
ま と め ○ 分	5. 小テストに取り組む。	<p>*生徒の実態や予想される生徒の反応を想定して個に応じた具体的な手立てを記述しておくといよ。 *生徒の実態に合わせ、支援や配慮が必要な場合は、配慮事項等を記載する。</p>	知④: 小テスト 思②: 行動観察
	6. 本時の学びを振り返る。		

【板書計画・ノート計画・ワークシート等 必要に応じて記載するとよい。】

(参考)「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校数学」  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_sansu.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_sansu.pdf)

